

キリスト教保育

2021年6月1日発行(毎月1回1日発行) 第627号

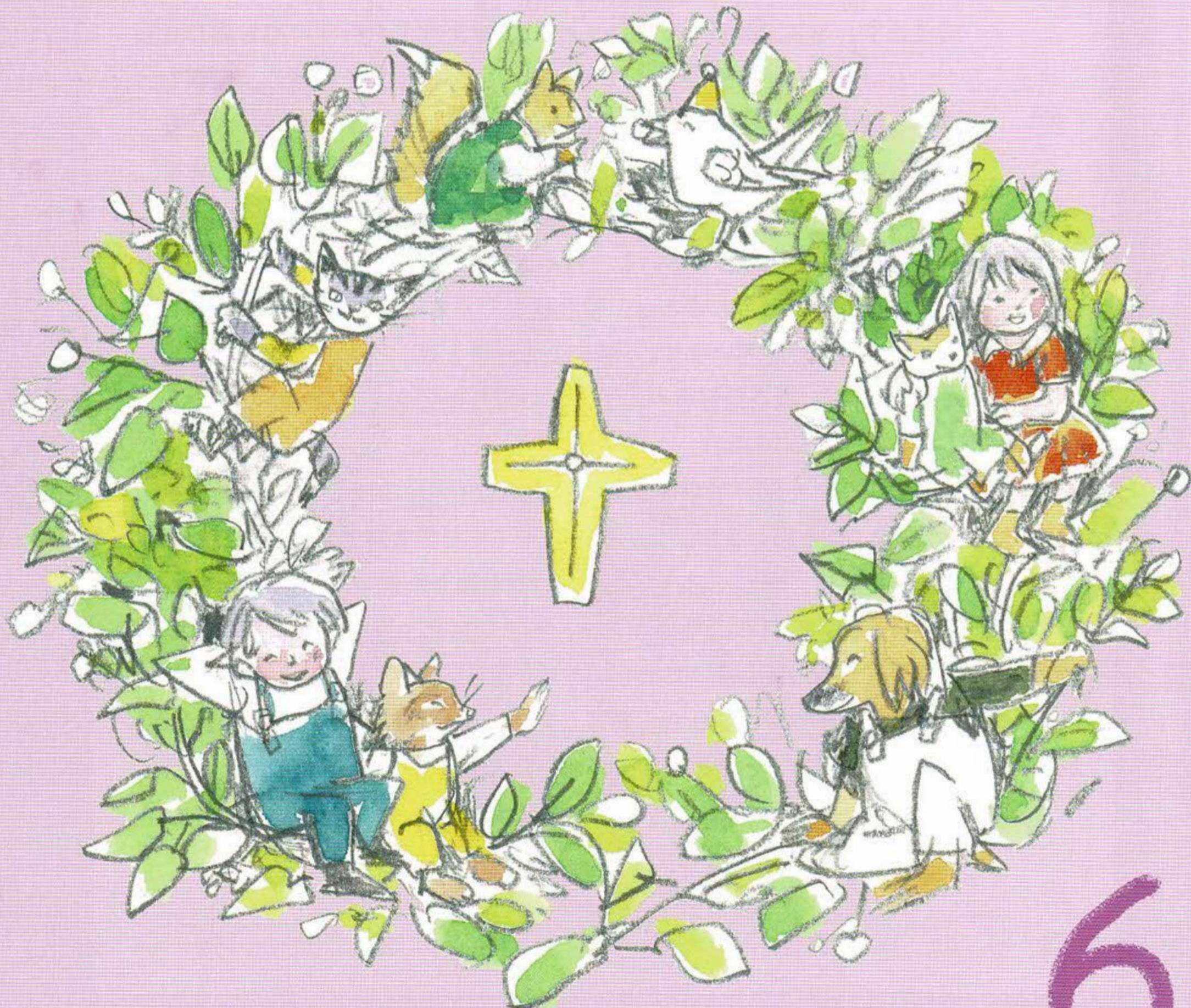
年主題

共に喜んで
～すべての歩みの中～

はじめての祈りのために
田島靖則

小論
論説
今こそ大切にしたい
安定した愛着関係
帆足暁子

小論
子どもの姿を
「語り合う」園内研修
高嶋景子



2021 JUN

6

弟子のひとりが言った、「主よ、ヨハネがその弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈ることを教えてください」。

口語訳聖書・ルカによる福音書11章1

今月の聖句の弟子たちの「教えてください」という言葉は、幼児教育にかかわるものからみると、少々ひっかかるものがあります。「祈り」は、もろもろの知識のように「教えられる」ものなのだろうかと、思うのです。

弟子たちにしても「教えてください」と申し出る前に、「祈る」主イエスの姿に、深い感動をおぼえ、そして、そこに「何か」がある、感じていたに違いないのです。それで「教えてください」とお願いすることにもなったのだ、と思います。「教え」てもらう前に、何かを「感じ」ていた、という点に何か大切なものがあるような気がします。

「祈る両親のうしろ姿をみて、祈りを感じとったという話は、幼時の思い出として、よく聞きます。お祈りは、ことばとして覚えるより、お祈りの心を感じとらせることが、たいせつなのでしょう。こうした中で、神さまを尊敬し、信頼し、愛し、感謝する内面的な姿勢が、育っていくのではないでしょうか」（『育つ育てる』三宅みち）と言っておられます、本当にその通りではないかと思います。祈りは「覚える」よりも「感じとる」ほうが、幼子にはふさわしいのです。

何とかして、子どもに、神さまがいらっしゃること、神さまのみ力は大きいこと、神さまが私たちを愛しておられること、祈ればこたえてくださることを、「感じとる」ようになってほしいと思います。「感じとる」ことは、子どもにも可能です。そのためには、「祈る」親や保育者が、子どもの傍らにいなくてはならないでしょう。

子どもたち「祈り」を聞いていますと、子どもなりに、随分、豊かな、神への思いを持っているな、と思います。良い日を与えてくださる神さまへの喜びと感謝、母への慈しみへの感謝、楽しく遊べたことへの満ち足りた思い、友への思いやり、自然の恵みへの感謝、明日への期待などが、そこにはあふれています。こうした思いが、健やかに育ち、育ち続けてほしいと思います。

子どもたちは、保育者である私たちから、何を「感じ」とっているでしょうか。そこで、私たちも「祈ることを教えてください」と祈らざるを得ないのです。

岡本不二夫・執筆 当時・日本キリスト教団平塚教会牧師 附属平塚二葉幼稚園園長
1986年「キリスト教保育」誌6月号より

キリスト教保育

第627号 6月号



年主題 共に喜んで ～すべての歩みの中～



幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉

「さあ こんどはみなさんが
人形劇を演るひとよ」 永野むつみ

〈論説〉

今こそ大切にしたい

安定した愛着関係 帆足暁子

子どもといっしょに

お祈りする 田島靖則

〈小論〉

子どもの姿を「語り合う」

園内研修 高嶋景子

聖書にきく・お話 後宮 敬爾

20

16

14

6

4

3

2

【カリキュラム】

6月 月のねがい表

心にとめて

高梨美紀

0・1・2歳児

認定幼稚園

実践からの学び

海野美代子

はじめてお祈りのために

心にとめて

永瀬真澄

3・4・5歳児

武藏野相愛幼稚園

実践からの学び

清水真理

子どもと賛美するため

〈連載〉 保育者する人々への

12のエール 石丸 昌彦

ええやん、

わらべうた！ 田中 元気

目福 口福 耳福 小倉 朋子

礼拝のお話 亀岡左枝子

50 46 44 43 42 36 34 33 32 26 24 23

風 吉岡 康子／編集子 赤木敏之
連盟だより

表紙絵 田中楳子
カット 長野祥三
中畠治子 松成真理子
金井ユリ 長縄えいこ

62 61 51 50 46